

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3100676号
(U3100676)

(45) 発行日 平成16年5月27日(2004.5.27)

(24) 登録日 平成16年1月21日(2004.1.21)

(51) Int.Cl.⁷

A45D 42/00

F I

A45D 42/00

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2003-271397 (U2003-271397)
(22) 出願日 平成15年9月25日(2003.9.25)(73) 実用新案権者 595018617
アイメディア株式会社
広島県広島市東区光町1丁目10番19号
(74) 代理人 100074055
弁理士 三原 靖雄
(72) 考案者 田中 寿代
広島県広島市東区光町1丁目10番19号
アイメディア株式会
社内
(72) 考案者 藤井 南海子
広島県広島市東区光町1丁目10番19号
アイメディア株式会
社内

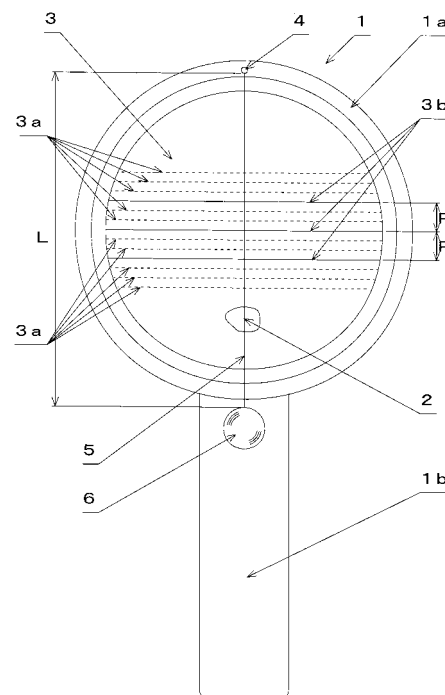
(54) 【考案の名称】 検顔用鏡

(57) 【要約】

【課題】 この考案は、人間の顔の変形量が定量的に把握出来る様にした検顔用鏡を開発・提供するものである。

【解決手段】 この課題を解決する為の手段として、鏡の表面中心部に取手と平行で、且つ、上下両端部を連結する1本の縦線を設け、且つ、該縦線を基準にして直交し、且つ、左右両端部を連結する複数の横線を中央部に設け、且つ、該縦線上の一端部に振り子用紐の係止部を設け、且つ、該係止部に所定長さを有する振り子の紐の一端を係止し、他端に錘を係止して設けた事を特徴とする検顔用手鏡から構成される。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

化粧時等に使用する鏡（１ａ）において、該鏡（１ａ）の表面中心部に上下両端部を連結する１本の縦線（２）を設け、且つ、該縦線（２）を基準にして直交し、且つ、左右両端部を連結する複数の横線（３）を中央部に設け、且つ、該縦線上の一端部に振り子用紐（５）の係止部（４）を設け、且つ、該係止部（４）に所定長さ（Ｌ）を有する振り子の紐（５）の一端を係止し、他端に錘（６）を係止して設けた事を特徴とする検顔用鏡。

【請求項 2】

鏡（１ａ）の中央部に設けた複数の横線（３）を、細線又は破線（３ａ）と所定間隔（Ｐ）毎に太線（３ｂ）で描き、焦点を合わせ易くする事で、鏡（１ａ）に描写される顔（Ｆ）の形状・位置・変形状態等をより鮮明に見易くした事を特徴とする請求項 1 記載の検顔用鏡。 10

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

この考案は、化粧時等に使用する検顔用鏡に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

本来、化粧時等に使用する鏡は、人間の身体のありのままの姿形を映し出すのが目的で、あるべき姿である基準に対して、どれ位変形しているか、又、ずれているかを見極める 20 為のものではなかった。

【0003】

従って、従来鏡はありのままの姿をいかにして見易くするかが課題であって、その課題を解決する為の、種々の提案が出願されている。（例えば、特許文献 1 を参照。）

【特許文献 1】実用新案公開平 07 - 039711**【0004】**

しかし、上記の従来技術では人間の顔の変形量は定量的に把握出来ない為、どこをどれだけ修正すれば良いかが判らなかった。

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】**

30

【0005】

そこで、この考案は上記問題を解決する為、人間の顔の変形量が定量的に把握出来る様にした検顔用鏡を開発・提供するものである。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

この課題を解決する為の手段として、鏡の表面中心部に取手と平行な１本の縦線を設け、且つ、該縦線に直交する複数の横線を設け、且つ、該縦線上の一端部に振り子用紐の固着部を設け、且つ、該固着部に所定長さを有する振り子の紐の一端を係止し、他端に錘を係止して設けたものである。

【考案の効果】

40

【0007】

鏡の表面中心部に１本の縦線を設け、且つ、該縦線に直交する複数の横線を設け、且つ、該縦線上の一端部に振り子用紐の係止部を設け、且つ、該係止部に所定長さを有する振り子の紐の一端を係止し、他端に錘を係止して設ける事で、顔の変形又はズレ・傾き等を自覚する事が出来る。

【0008】

更に、顔の変形又はズレ・傾き等を自覚する事でメイクや顔のマッサージ、普段の癖の意識付け等によりバランスのとれた顔に成る。

【考案を実施するための最良の形態】**【0009】**

50

そこで、この考案を実施する為の最良の形態としては、本考案を使用する事で自分の顔の変形度合を自覚し、且つ、その変形した顔を修正する為の用具が付属されれば最良であり、この付属用具については別途出願予定である。

【実施例 1】

【0010】

そこで、この考案の一実施例を図 1 ~ 図 2 に従って詳述すると、手鏡 (1) の鏡 (1 a) の上面中心部に取手 (1 b) と平行で、且つ、上下両端部を連結する 1 本の縦線 (2) を設け、且つ、該縦線 (2) を基準にして直交し、且つ、左右両端部を連結する複数の横線 (3) を中央部に設け、且つ、該縦線上の一端部に振り子用紐 (5) の係止部 (4) を設け、且つ、該係止部 (4) に所定長さ (L) を有する振り子の紐 (5) の一端を係止し、他端に錘 (6) を係止して設けた事を特徴とする検顔用手鏡から構成される。 10

【0011】

又、鏡 (1 a) の中央部に設けた複数の横線 (3) を、細線又は破線 (3 a) と所定間隔 (P) 毎に太線 (3 b) で描き、焦点を合わせ易くする事で、鏡 (1 a) に描写される顔姿 (F) の形状・位置・変形状態等をより鮮明に見易くした事を特徴とする検顔用手鏡から構成される。

【0012】

図 2 は、本来あるべき顔の中心線と実際の顔 (F) の中心線 (顔の傾き度合) の関係を表したものである。

【0013】

次に、この考案の使用方法について具体的に説明すると、まず、最初に手鏡を手で持って真直ぐに立ち、手鏡 (1) と顔の間を約 25 ~ 30 cm 離して、そのまま自分の顔 (F) を見る。 20

【0014】

そして、手鏡 (1) の中心にある縦線部 (2) と振り子の紐 (5) が重なるように合わせ、更に、横線の太い線 (3 b) の最上部を目の下部に合わせ、左右のバランスを確認する。

【0015】

例えば、図 3 に示す様に、手鏡 (1) の中心部の縦線 (2) が、振り子の紐 (5) と一致していない場合は、顔 (F) がずれている事になる。又、図 4 に示す様に、手鏡 (1) の中心部の縦線 (2) が、振り子の紐 (5) と一致している場合は、ずれの無い理想的な顔 (F) といえる。 30

【産業上の利用可能性】

【0016】

この考案は、人間の顔 (F) の変形量が定量的に把握出来、且つ、自覚する事でメイクや顔のマッサージ、普段の癖の意識付け等によりバランスのとれた顔に出来る事から、男女問わず、大人から子供に至るまで広範囲に寄与する点で、産業上の利用可能性を有する。

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図 1】この考案の一実施例を示し、正面図である。
 【図 2】この考案の一実施例を示し、本来あるべき顔の中心線と実際の顔の中心線 (顔の傾き度合) の関係を表した正面図である。

【図 3】この考案の使用例を示し、顔にずれが生じている場合の正面図である。

【図 4】この考案の使用例を示し、ずれの無い理想的な顔の場合の正面図である。

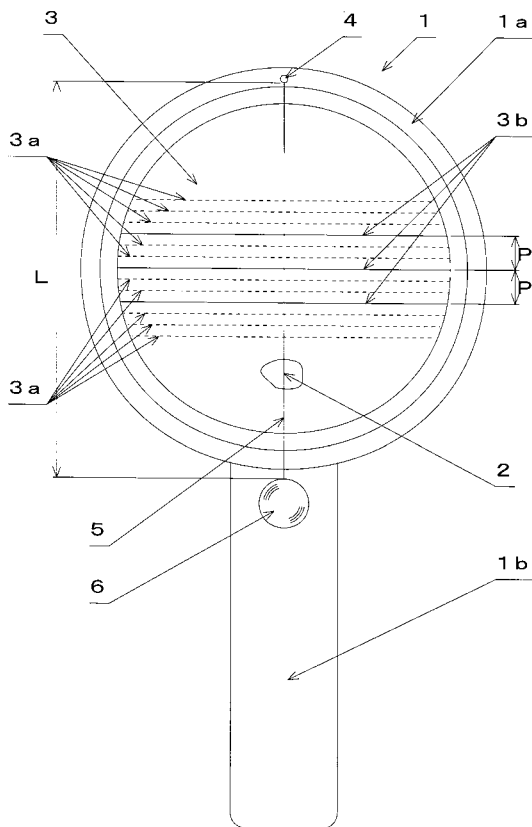
【符号の説明】

【0018】

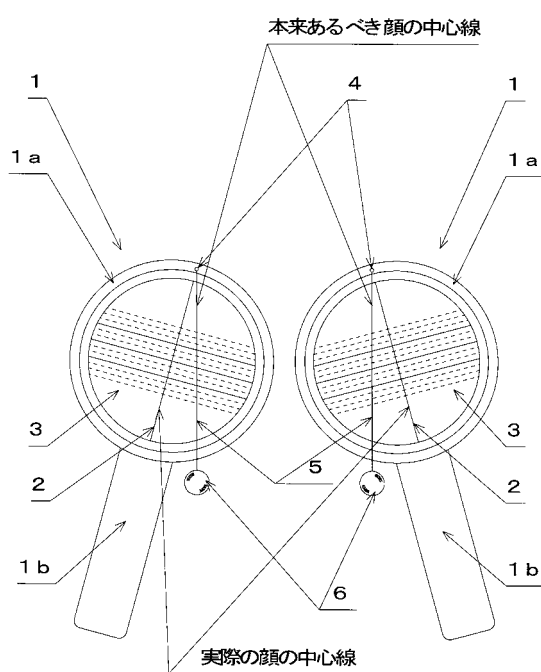
- 1 手鏡
- 1 a 鏡
- 1 b 取手

- 2 縦線
- 3 横線
- 3 a 細線又は破線
- 3 b 太線
- 4 固着部
- 5 紐
- 6 錘
- F 顔
- L 所定長さ
- P 所定間隔

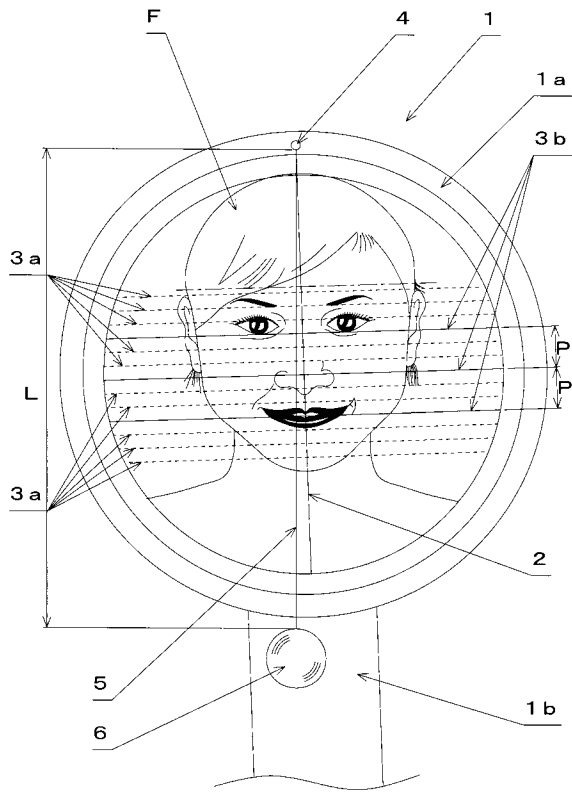
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

